

旬の人 伊藤 美誠さん

卓球選手



©卓球王国
試合中は常に攻めの姿勢を崩さない。ラケットの裏表に異なるラバーを貼り、自在に打ち分けて球筋を変化させている。

伊藤美誠(いとう・みま)

スターツSC所属(大阪・昇陽中3年)、静岡県磐田市出身の15歳。2015年3月のドイツオープンでワールドツアー史上、最年少の14歳152日でシングルス優勝。5月の世界卓球蘇州大会でシングルス・ベスト8入りし、特別新人賞を獲得。リオ五輪の団体代表候補。



「いつも地元・見附天神のお守りを持ち歩いています」と語る伊藤さんは、故郷に対する恩返しとして磐田市へ車イスの寄附も行っている。

私は静岡に 育ててもらいました。

来年のリオ五輪・卓球女子団体の代表候補に選定された伊藤美誠さんは、10歳の時にオリンピック出場を目標に掲げ、わずか5年で夢を実現させるであろう日本卓球界のホープだ。

静岡県磐田市に生まれた伊藤さんは、両親の影響で2歳から卓球と触れ合い、4歳の時には全日本卓球選手権バンビの部(小2以下)に出場。早くから日本卓球界の期待の星として存在が知られていた。その後、同バンビの部優勝、同カブの部(小4以下)優勝と順調にトップアスリートへの階段を駆け上り、10歳の頃にはオリンピック出場をはっきり意識するようになったという。

この5年間、伊藤さんは精神的に体と精神を鍛えながら世界中を転戦し、世界ランキングを11位まで上げている(取材時)。そして「競ったときこそ平常心を保って攻めていく」というスケールの大きい競技スタイルに磨きをかけて、ワールドツアーの世界最年少優勝記録を打ち立てた。

そんな伊藤さんが素に戻れるのは地元に戻ってきた時だ。「豊かな自然と清らかな空気は居るだけでリフレッシュできます。だから私は静岡に育ててもらったと思っています」。

現在、伊藤さんが照準を合わせているのは2020年の東京オリンピックだ。「来年のリオは団体戦ですが、銀メダル以上がノルマ。東京では団体とシングルの両方で金メダルを取ることが目標です」。

幼い頃の夢のスタートラインに立った少女は、5年後の五輪で想像を越える活躍を見せるに違いない。